

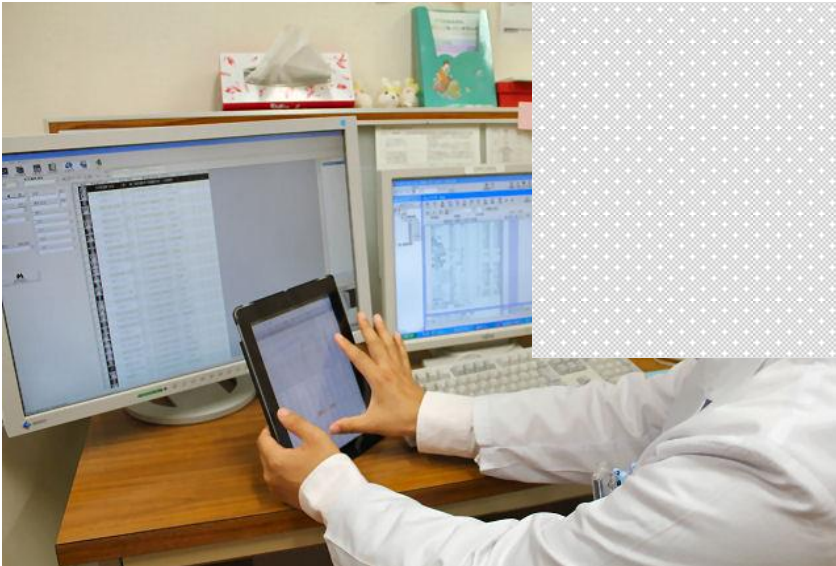
この導入事例は2012年にご採用頂いたお客様のご紹介です。個人情報保護等の観点より特定される法人名や個人名などは匿名とさせていただきます。皆様に、お客様の生の声をお伝えできれば幸いです。敬称は省略させていただきます。

医療法人 ○○会グループは、高齢者向け医療と介護福祉の提供を中心に□□県内の地域医療を担う。グループ内の病院や福祉施設が相互に連携、協力することで、「地域完結型医療・福祉」の実現に努めている。理事長は、○○会の目指す地域完結型医療・福祉について次のように説明する。「われわれは地域を1つの医療・福祉施設と見なして、いつでも、どこでも、誰でも、必要なときに安心して、安全な医療・福祉サービスが受けられる施設という姿を目指してきました。病院のほか、介護老人保健施設や高齢者総合福祉施設、さらにサービス付き高齢者向け住宅などを開設し、地域のみなさまに貢献できる施設づくりをしてきました。これが地域完結型という意味です」

### 血圧や体温、食事の記録などをすべて管理

○○会が運営している介護老人保健施設と高齢者総合福祉施設では、高齢の入所者に対してさまざまな介護サービスを提供している。入浴や食事、リハビリテーションなどとともに、介護・看護を行って高齢者の生活を支える施設だ。日々の介護・看護の作業は多岐にわたる。同施設の看護師であるAさんは、そうした中でも毎日繰り返して行われる作業を次のように語る。「検温や脈拍・呼吸・血圧測定は入所された方一人ひとりの健康の基本的なデータであり、日課として記録蓄積しています」血圧計などを載せたカートを手押ししながら一人ひとりのところへ行き、測定の結果をひとりひとり間違いのないように台帳に記入していく。非常に重要かつ地道で時間のかかる作業だ。「全員を回り終わった後は、詰所で台帳の数値を別の個人別管理書類(「温度板」と呼ばれるカルテ)へ転記します。この作業に毎回1~2時間を要していました。忙しいときには、測り終えてから転記までにさらに時間が開いてしまうこともありました」(Aさん)高齢者総合福祉施設を例にとると、約60人の入所者に対して、1日あたり4人の看護師・ヘルパーがこうした作業にあっていた。また新しいカルテの用意や、管理書類をまとめて保管しておくためのスペース確保といったことも必要なため、その運用負荷も高いものだった。このようにして蓄積された利用者のデータは、個人ごとに管理され、日ごろの健康管理に用いられる。もし入居者の体調急変などが起こった場合に、医師へ電話連絡してこれらのデータを報告しながら指示を仰いだり、場合によっては医師が来所して診察を行う。このときの情報伝達に苦労があったと医師でもある副理事長はいう。「表れる症状はさまざまです。体温・脈拍などの数値の時系列変化にはじまり、顔色はどうか、呼吸の状態はどのように変化しているかなど、電話による直近のデータの報告だけでは判断が難しいこともありました。医師の手元にそのようなデータがあれば、よりの確かな判断材料になり得ると思っていました」(副理事長)

### 医師とのデータ共有で万全のサポートを



病院から遠隔で施設利用者のバイタルデータが参照でき、適切かつ迅速な判断が可能に

病院と施設の立地が離れている友朋会では、こうした緊急時に利用者のバイタルデータを医師が遠隔から見るができるソリューションが必要であると判断、ソリューションの発掘を始めた。「現場でお世話をしている介護福祉士と看護師、それに医師の3者が共通のデータをいつでも見ることのできる環境を構築することが、利用者にとっても望ましいと考えました。また、現場での日々の入力作業効率も改善すべき点でした」(副理事長)

そんなときに目に飛び込んできたのが、雑誌に紹介されていた、**コーネッツ**の介護事業者向け看護支援システム「**SafeHR**」だ。**血圧、体温などの測定データをiPadを使って入力することで、上述した「温度板」と呼ばれるカルテを自動作成してクラウド上に保存、時間や場所を問わず閲覧できるもの。外部から閲覧されるデータはすべて匿名化されているため、個人情報保護の観点からも万全が期されている。**

これを利用すれば、施設と病院間で利用者の日々のデータがリアルタイムに共有できるようになると考えた理事長は、早速導入を決定したという。「雑誌で見てもすぐに資料を取り寄せ、実物を見せてもらいました。今後も踏まえて、病院以外での医療、つまり在宅・施設・遠隔医療などを実践していくには、これが絶対に必要になると感じました。医師数の減少、看護師の高負荷業務など現状の課題を解決しない限り、医療サービスは破綻していく方向にあります」と理事長は認識を述べる。そこで、2012年2月から3施設で合計11台のiPadにより、日々の看護に利用が開始された。「**実際に利用者のお世話をしているヘルパーや介護士は、医療についてはいわば素人です。そんな人たちにも、データを看護師や医師とリアルタイムに共有できるこのシステムはとて心強いものになっています。**iPadでの入力はとて簡単で、片手に体温計を持ちながらもう片方の手で入力もできます。またデータは入力後すぐにクラウド上のデータベースに反映されるので、今まで行っていた別の用紙への転記作業も不要です。これにかかっていた1時間ほどが別のことに割り当てられるようになり、その結果、お世話できる時間が増えたのも事実です」(Aさん)

